

雑記帳

ーフランス滞在記ー



“西欧の驚異” モン・サン・ミッシェル



オルレアン市街を走行するトラム

2006年9月26日～10月2日

農地計画課主任 齋藤 淳一郎

はじめに

小生思うところあり、9月26日（火）から10月2日（月）にかけて、パリをはじめとするフランス各地を訪れました。

10年ぶり2回目となる訪仏でしたが、半年経つと街並みが一変してしまう中国沿岸部の大都市と違って、パリには若干の懐かしささえ覚えました。

パリでは、日本貿易振興機構（ジェトロ）内に設置されている愛知県産業情報センターと国際観光振興機構（JNTO）を訪問する機会を得ました。また宇都宮市と友好提携関係にあるオルレアン市に足を伸ばし、本県でもその導入が議論されているLRT（ヨーロッパでの一般的な呼び名は「トラム」）に乗車することもできました。本書はそれらの様子について書き留めた内容を整理したものです。

このほど人事課から、来年度からの組織改編案として国際交流課の機能を商工部局に移管し、産業政策課国際経済担当の機能とを合わせて「国際課」を新設することが提案されました。フランス・ヴォークリューズ県と提携関係にある本県にとって、フランスは、自治体国際化協会（CLAIR）パリ事務所への派遣者も活用することができ、経済交流の格好のパートナーになるものと思われます。

また番外編として、富山市のLRT、ポートルムの試乗記も併載しました。鉄道マニア上がりの地理学徒である小生は、本県のLRT導入の是非を巡る議論には大きな関心を持っている次第です。

末尾ながら、お忙しい中にも関わらず物好きな日本人旅行者を受け入れて下さった愛知県パリ産業情報センターの社本朗さん、JNTOパリ事務所の平田徹郎所長、高野陽子次長、そして連日夕食をお付き合いいただいた上に、休日にも関わらずオルレアンまで連れて行って下さったCLAIRパリ事務所の大嶋美由紀所長補佐（栃木県派遣）には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

平成18年11月20日

齋藤 淳一郎

目 次

はじめに	1
日程表	3
【訪問概要】愛知県パリ産業情報センター	4～5
【訪問概要】国際観光振興機構（J N T O）パリ観光宣伝事務所	6～7
パリ素描	8～9
【視察概要】一最も美しい村ーブロン・オン・オージュ	10
【視察概要】オルレアンのトラムについて	11～13
《番外編》富山市のL R T、ポートラムについて	14～18

一空の玄関で日本産農産物をP R一

J A全農は成田空港に日本産農産物を販売する直営店を開設している。帰国する外国人にお土産として購入してもらうことが目的で、米のほかに旬の果物も販売している。

搭乗前に聞き取りしたところ売れ行きは好調とのこと。ただし外国に日本産農産物を持ち込む際に植物検疫を必要とする場合があることから、外国語版の説明書を作成するなどして買い物客に注意を促しているとのこと。



日 程 表

Date	Time	Schedule
9/26 (Tue)	7:00	J R 宇都宮駅 (マロニエ号利用)
	9:50	成田空港第2旅客ターミナル
	13:00	N R T (J L 4 0 7)
	18:00	F R A
	20:40	F R A (A F 2 4 1 9)
	22:00	P A R
9/27 (Wed)	午 前	パ リ 市 内 観 光
	13:00	愛知県パリ産業情報センター 訪問
	15:30	国際観光振興機構 (J N T O) パリ観光宣伝事務所 訪問
	夕 刻	自治体国際化協会 (C L A I R) パリ事務所 訪問
9/28 (Thu)	終 日	郊 外 観 光 (「モンサンミッシェルと美しい村」散策日帰りツアー) 参加)
9/29 (Fri)	終 日	パ リ 市 内 観 光
9/30 (Sat)	9:21	パリ・オステルリッツ駅 (急行列車利用、各停乗り継ぎ)
	10:29	オルレアン駅
	午前～午後	オルレアン市街視察
	16:03	オルレアン駅 (各駅停車利用、急行乗り継ぎ)
	17:07	パリ・オステルリッツ駅
10/1 (Sun)	16:20	P A R (K L 1 2 3 8)
	17:40	A M S
	20:15	A M S (J L 4 1 2)
10/2 (Mon)	14:30	N R T
	15:40	成田空港第2旅客ターミナル(マロニエ号利用)
	18:30	J R 宇都宮駅

宿泊先：★★★GrandHotelHausmann(グラントテル・オスマン)

オペラ・ガルニエに近く、ビジネス街、ショッピング街ともに徒歩数分でアクセスできる最高の立地条件。内装は各部屋異なり、かわいらしい色遣いで優雅な気分させてくれる。衛星放送やインターネット接続プラグ、エアコンも完備で大満足。

(出所：地球の歩き方A07 パリ & 近郊の町 2006年～2007年版)

【訪問概要】愛知県パリ産業情報センター

1. 日時

2006年9月27日（水）13:00～14:40

2. 場所

- ・ 愛知県パリ産業情報センター（日本貿易振興機構（ジェトロ）パリセンター内）外

3. 応対者

- ・ 愛知県パリ産業情報センター 社本 朗 氏

4. 目的

- ・ 愛知県パリ産業情報センターの活動内容を調査するため。

5. 愛知県パリ産業情報センターの概要

- ・ 愛知県が日本貿易振興機構（ジェトロ）パリセンターに設置している海外事務所。
- ・ 人員は県からの派遣者1名（社本氏）のほか、日本人ナショナルスタッフ1名の計2名。派遣者の身分はジェトロ嘱託員（栃木県香港駐在員と同じ扱い）。
- ・ なお、愛知県の海外事務所（海外産業情報センター）は、パリのほかにサンフランシスコ、上海にもあり、いずれもジェトロの海外センター内に設置されている。
- ・ ジェトロパリセンターはジェトロの欧州調整センターとしての機能を担っており、約40名のスタッフが日仏間の貿易、投資、産業交流の促進に関する業務にあたっている。

6. 聞き取り内容

- ・ 自分自身は赴任して半年。妻と子供を帯同している。県庁での所属は、産業労働部産業立地通商課国際産業交流グループ。入庁してからは産業関係の部局に勤務している。
- ・ 当事務所の最大のミッションは対日投資。これはジェトロパリセンターも同様。
- ・ フランスには本県のほかに、大阪市と兵庫県が海外事務所を置いている。いずれも企業誘致に力を入れている。
- ・ 本県にはトヨタの本社があることから、自動車関連業種の誘致にとくに力を入れており、世界的な大企業になったトヨタだが、現在でも意思決定が日本で行われていることから、日本国内であればその一大拠点である本県に進出しようというニーズが関連企業サイドにあると思われる。
- ・ 本県のヨーロッパでの知名度は、「愛・地球博」（2005年日本国際博覧会）の会場になったことで従来より向上したと思われる。ただし「愛・地球博」開催にあたり、パリに本部がある国際万博協会（BIE）との連絡調整用務にはとくに従事しなかった。
- ・ 来月、県から企業誘致を目的とするミッションがやってくる。フランス人の仕事の進め方はゆっくりしている。幹部職員との渡仏を受け入れる私たちには「2週間しか

ない」と思うのだが、先方は「2週間もある」といった感覚で対応してくる。

- ・ 企業誘致にあたって、対日投資に関心のある企業を発掘するのが困難である。
- ・ ドイツなどフランス国外に出張する機会もあるが、言葉の違いが障害となっている。
- ・ 外国人観光客の誘致や農産物・食品の輸出促進といった業務には取り組んでいない。フランスは農業国で、農産物や食品を輸入するというマインドが弱いのではないか。
- ・ 日本の地方自治体の「中国シフト」には疑問を感じる。中国人観光客の誘致については旅行エージェントの「たかり体質」に辟易とすることがある。中国企業の誘致についても、インキュベーション室に入居したくらいでは雇用や税収といった面での波及効果は低いと思われる。
- ・ ポートセールスはあまりやっていない。エアポートセールスについても、中部国際空港株式会社が直接取り組んでいて出番がない。なお中部国際空港（セントレア）・パリ間には、日本航空・エールフランス（コードシェア便）がディリーで就航している。

7. 所感

- ・ 訪問先の主要ミッションは企業誘致で、北東アジアに設置されている地方自治体の海外事務所と違って観光客誘致や農産物・食品の輸出には取り組んでいないとのことだが、費用対効果の面で十分なパフォーマンスを上げているのか確認できなかった。少なくとも本県には国際空港がない上、世界レベルの大都市がないことから、一般に外国の大企業が拠点を設置するというニーズは認められない。こうした点も踏まえて事務所設置という取組は効果的でないと思われる。
- ・ ただし訪問先は自治体国際化協会（CLAIR）パリ事務所と同じビルに入居していることから、本県関係者が訪仏する際にはジェットロパリセンターと併せて往訪し、現地の経済情報の収集にあたっても良いと思われる。

『外資系企業誘致へ補助制度』

愛知県は、県内（名古屋市を除く）に進出する外資系企業に事務所開設経費や賃貸料などを補助する新しい制度を創設した。外資系企業誘致に的を絞った補助制度の導入は全国的にも珍しいという。

新たに事務所開設を計画する外資系企業には、市場適合化調査費や通訳・翻訳費、許認可・登記経費、人材募集費などの準備経費について150万円を限度に2分の1を補助。また、進出のため事務所を賃借する同企業には、賃貸料1年分の2分の1、最高300万円を補助する。ただ、飲食業や小売業、サービス業など最終消費者をターゲットとした事業は対象外。同県では、昨年の中部国際空港開港や愛・地球博（愛知万博）開催で、地域の知名度、関心度が高まったことから、外資系企業誘致の積極的展開に乗り出した。

（出所：「地方自治職員研修」2006年10月号）

【訪問概要】国際観光振興機構（J N T O）パリ観光宣伝事務所

1. 日時

2006年9月27日（水）15：30～16：40

2. 場所

J N T Oパリ観光宣伝事務所

3. 応対者

- ・ J N T Oパリ観光宣伝事務所長 平田 徹郎 氏
- ・ J N T Oパリ観光宣伝事務所次長 高野 陽子 氏

4. 目的

- ・ フランスの日本旅行市場の状況について調査するため。

5. 聞き取り内容

- ・ 2005年に日本を訪れたフランス人は110,822人で前年比15.6%増。そのうち観光目的での訪日者数は55,378人で前年比18.2%増。
- ・ 訪日フランス人の約半分が観光客だが、団体ツアーの参加者はその1割ほどに過ぎない。
- ・ ツアーの定番コースは、東京、箱根、京都、奈良、大阪、広島（宮島）といった“ゴールデンコース”で、9泊11日（機中泊：1泊）の旅程が一般的。
- ・ フランス語の観光パンフレットを作成している日本の地方自治体は東京都のほか、和歌山県、横浜市、高山市（岐阜県）といったところ。
- ・ 日本専門の旅行エージェントは1～2社あるが、あまり大きくない。“アジア専門”といった括りの会社の方が多い。
- ・ 中国を訪れるフランス人は年間30万人ほどいるが、中国と日本との区別がついていない人もいるようだ。韓国を訪れるフランス人はあまりいない。
- ・ フランス人に対してアピールすべき日本の観光魅力は、アジア諸国と違って“わび・さび”や座禅といったスノッブ的な要素なのではないだろうか。高野山（和歌山県）の宿坊に滞在するといったツアーが注目を集めている。高野山に人気が出てきたのは、3～4年継続してプレストリップに取り組んだ成果でもある。
- ・ 歌舞伎のパリ公演や日本食の普及などを通じて、フランス人の日本に対する関心は高まっている。ただし日本食に対するイメージは、寿司、焼き鳥、ラーメンといったメニューに限られる。生モノである寿司には抵抗ないようだ。
- ・ 浮世絵、能、相撲といった歴史を感じさせるもののほか、漫画やJPOPといった現代的な日本文化に関心を持つフランス人も少なくない。
- ・ フランスにもインセンティブツアー（報奨旅行）はあるが、3泊4日程度の日程で地中海沿岸やモロッコ、チュニジアに出掛けることが多い。日本をディスティネーションとすることは、日程的にも予算的にも無理があると思われる。

- ・ 現在ユーロ高だが、為替レートの変動が訪日者の増加に結びついているとは考えにくい。
- ・ 先週「トップレザー」というエージェント向けの旅行見本市がノルマンディーで開催された。京都府や和歌山県が出展参加している。一般消費者向けの見本市は3月に開催される。
- ・ 観光客誘致にあたっては、見本市への出展や広告掲載という手法はあるが、口コミが一番効果的なのではないだろうか。
- ・ 当事務所の管轄区域はフランスのほか、イタリア、スペイン、ベルギー、ギリシャなど。フランスのほかにはスペインやイタリアからの訪日者数が増えている。
- ・ イギリスやオランダ、北欧諸国についてはロンドン事務所が所管している。日本を訪れるイギリス人がフランス人より多いのは、歴史的な結びつきが強いからではないだろうか。

(表) 2005年のヨーロッパ諸国からの訪日者数 (出所: J N T O)

国 (地域名)	総数 (人)	伸び率 (%)	うち観光客数(人)	伸び率 (%)
イギリス	221, 535	2. 7	123, 618	0. 5
ドイツ	118, 429	11. 4	48, 541	9. 2
フランス	110, 822	15. 6	55, 378	18. 2
ロシア	63, 609	12. 5	29, 835	9. 7
イタリア	44, 691	14. 8	22, 901	20. 2

- ・ 当地での栃木県の観光プロモーションにあたっては、「栃木」より「日光」というブランドを前面に打ち出すべき。
- ・ まずは日本をストップオーバーするビジネス客に、1泊2日程度の日程で栃木県内を訪れてもらうといった仕掛けを考えてみてはどうだろうか。フランス人はアジア各国からの観光客と比較して、アテンダンスにあまり期待していないと思う。

6. 所感

- ・ 国際交流課から提供のあった本県概要に関するパンフレット (フランス語版) と観光交流課から提供のあった観光パンフレット (英語版) 各5部を手渡した。
- ・ 現在「ビジット・ジャパン・キャンペーン」において、日本の地方自治体は北東アジアからの観光客誘致に躍起になっている。そこで本県としては他自治体と差をつけるためにも、他自治体に先駆けてフランスの旅行エージェントやマスコミ関係者を本県に招聘するなどして、県内観光地のPRを行うべきと考える。
- ・ フランスでの観光プロモーションにあたっては、自治体国際化協会 (C L A I R) パリ事務所への本県からの派遣者に対して可能な範囲で助力を仰ぐとともに、「トップレザー」等の旅行見本市への出展参加 (まずは定期協議団渡仏に合わせての視察から?) についても検討すべきと思われる。

パリ素描

－愛知県産業情報センターの執務室－



現地と日本時間を表示する時計があったことが印象的。フランスと日本の時差は8時間（夏は7時間）あることから、派遣元との連絡がうまく行かない場合もあるとのこと。

執務スペースは同じジェットロ入居方式でも、“大部屋方式”の栃木県香港駐在員事務所などと違い個室が与えられていた。これを「気楽で良い」と思うか、「情報が入らない」と考えるかは微妙なところである。

－J N T Oパリ事務所のカウンター－

日本全国の観光パンフレットが並んでいた。東京本部が送付してくるものを並べているとのことだが、フランス語版は見当たらなかった。加えて本県関係のパンフレットは、英語版や日本語版でもなかった。

なおJ N T Oパリ事務所は、自治体国際化協会（C L A I R）パリ事務所・ジェットロパリセンターから徒歩圏にある。



－旅行代理店のウィンドー－

「ジャパンレールパス」（7日間）が199ユーロ（1ユーロ＝約150円）で販売されていた。

日本行きのツアーコースでは、ダイレクトフライトのあるJAL、ANA、エールフランスのほか、KAL（大韓航空）の経由便を利用したコースもある模様。

ヨーロッパ各国のほか、ジャマイカなどのカリブ海付近も人気を集めているようだ。



パリ素描

ー自治体国際化協会（CLAIR）

パリ事務所が入居しているビル

地下鉄1号線・7号線の「パレロワイヤル
ミュゼデュルーヴル」駅すぐの好立地。ルー
ヴル美術館とも至近距離にある。

CLAIRパリ事務所長は平成6年度か
ら7年度にかけて本県総務部長を務めた四
方和幸福氏。

なお同じビルには、ジェトロパリセンター
も入居（3階）している。



ーパリの日本食レストラン

日本食に対する関心の高まりは、フランス
料理の本場においても例外ではない。

このほど農林水産省が海外の日本食レス
トランの格付けに乗り出した。日本料理を名
乗っていても、食材や調理法が全然違って
いる場合が少なくないとされている。

しかし「中華園」の煮込み手打ちそばが本
場よりおいしいように、海外の日本食レス
トランも現地の嗜好や食材に合わせて独自の
日本食を提供すべきではないだろうか？

ーパリの日本食料品店

パリ在住の日本人に親しまれている「京子
食品」。雑貨類も取り扱っている。

スペイン産あきたこまち「みのり」は3.95
ユーロ/kg、19.2ユーロ/5kg。カリフォル
ニア産「国宝ローズ」は3.35ユーロ/kg、
16.40ユーロ/5kgで販売されていた（1ユ
ーロ＝約150円）。

ちなみに大嶋さんのお土産としては、矢板
産コシヒカリを遣いました。（日本産精米
のEU諸国への持ち込みは問題ありません）



【視察概要】ー最も美しい村ーブロン・オン・オージュ

1. フランス「最も美しい村」活動について

- ・ 歴史的な風景や田園景観などを観光資源として位置づけ、その付加価値を高めるとともにネットワーク化を図るために、1982年にスタートした活動。情報交換や共同研究を行うとともに、各種のプロモーションも実施している。
- ・ 現在約200の農村が加盟している。加盟にあたっては審査委員会が審査し、また基準を満たさない場合には除名されるなど、「最も美しい村」連合に加盟していることが一種のステータスとなっている。
- ・ 同様の活動はヨーロッパ諸国をはじめとする世界各地に波及している。日本でもNPO法人「日本で最も美しい村」連合が設立されている。

2. ブロン・オン・オージュの概要

- ・ 「ブロン・オン・オージュ」は、オージュ県のブロン村の意味。
- ・ 人口は約220人で、10世紀にバイキングに攻略された歴史もある。
- ・ ハイシーズンは夏で、10月から3月にかけてはクローズするカフェやレストランも少なくない。国内はもとより、イギリス、オランダ、ドイツ、ベルギー、スイスからも観光客が訪れている。
- ・ 骨董市や国際ブギーフェスティバルの開催などを通じた集客にも努めている。

3. 所感

- ・ 我が国でも良好な景観形成を目的とした景観法が平成17年6月から施行され、農サイドにおいては景観農振地域整備計画の策定による農業的土地利用を推進するとしている（庁内の担当課：農地計画課農地調整班）。しかし良好な景観形成を地域社会の活性化に結びつけようとする動きは弱いままである。そこで「最も美しい村」の取組を先行事例として捉え、その取組を県内に紹介していくことは施策推進に有効であると感じた。



ブロン・オン・オージュの街並み



ブロン・オン・オージュの村役場

【視察概要】オルレアンのトラムについて

1. オルレアン市の概要

- ・パリの南方150km圏に位置するサントル地方ロワレ県の県都。
- ・面積は約28万km²、人口11万人弱（都市圏人口は約25万人）。
- ・温帯性気候で夏暑く、湿気が少ない。冬の気温は低い降雪はない。
- ・歴史的にはイギリスとの百年戦争の際にジャンヌ・ダルクが解放したまちとして有名。
- ・1989年5月に宇都宮市と友好提携関係を樹立。

2. トラムの概要

- (1) 開業年 2000年11月
- (2) 路線長 約18km（市街地を南北に縦断するラインA）
- (3) 総事業費 約2.9億ユーロ（1ユーロ=約150円）
- (4) 料金 1. 3ユーロ（バスと共通、1時間以内の乗り換え可）
1日券：2. 9ユーロ、週末チケット（土・日利用可）：2. 9ユーロ
10回券：11. 3ユーロ、30回券：29. 9ユーロ
1カ月券：34. 6ユーロ、1年券：315ユーロ
- (5) 電停数 24カ所
- (6) 運行時間 4：00～0：30
- (7) 運行間隔 5分30秒間隔
- (8) 平均速度 22km/h（最高速度80km/h）

※市街地を東西に横断するラインBの建設計画がある。路線長：約12km、電停数：26カ所を予定しており、2010年の開業を目指しているとのこと。

3. 状況

- ・路線はSNCF（フランス国鉄）オルレアン駅に接続しているが、駅構内には「la nouvelle gare（新しい駅）」のポスターが掲示されていた（画像1）。
- ・駅前にはバスターミナルがあったが、他の電停近くにバス停は見当たらなかった。
- ・電停と路面の間には若干の高低差があった。
- ・ロワール川に架かる橋は、自動車とトラムが共用していた（画像6）。車道については若干の渋滞が見られた（もう1車線あったら渋滞は避けられたかも…）
- ・運賃収受は“信用乗車方式”で、あらかじめ乗車券を購入した上で、乗車時に刻印機（画像8）で刻印する。
- ・郊外の電停近くにあるパーク・アンド・ライドの駐車場（画像9）の利用料金はトラムの運賃込みで1. 5ユーロ/日（7：00～20：00）。ただし日曜日・祝日は無料。
- ・郊外では車道と線路が分離されている。芝生敷の線路敷も見られた（画像10）。
- ・自動車の乗り入れが制限されている市街地では、トラムが走行していない時は、歩行者が線路敷を自由に往来していた（画像11）。

(画像 1)



新しい駅のポスター

(画像 2)



トラム・バスの乗車券券売機

(画像 3)



オルレアン駅前を走行するトラム

(画像 4)



電停に停車するトラム

(画像 5)



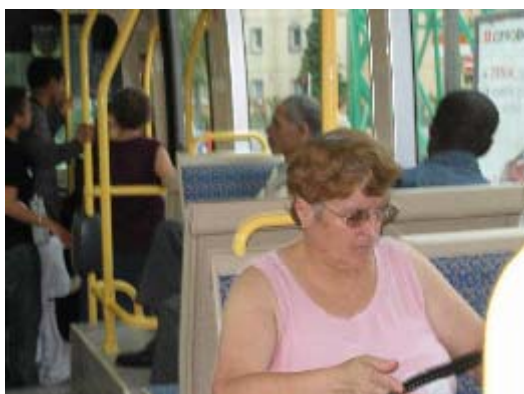
市街地を走行するトラム

(画像 6)



ロワール川橋で自動車と並走するトラム

(画像 7)



車内の様子

(画像 8)



車内に設置されている刻印機

(画像 9)



パーク・アンド・ライドの駐車場

(画像 10)



芝生敷の線路敷

(画像 11)



駅前から市街地を臨む



おまけ

《番外編》富山市のLRT、ポータルムについて

JR富山港線を路面電車化した我が国初のLRT、ポータルムに、平成18年10月21日（土）に試乗した結果は下記のとおり。

旧JR富山港線の概要

- ・市街から富山港への貨物輸送や工場への通勤の足としての役割を果たしてきた。
- ・営業キロは8.0kmで、かつては埠頭線（貨物線）、蓮町線（貨物連絡線、4.8km）、奥田線（貨物線）という支線が3本あった。
- ・T13.7富岩鉄道として開通→S18.1富山地方鉄道に移管→S18.6国鉄に移管し「富山港線」と改称→S62.4国鉄の分割民営化に伴いJRに移管→H18.2.28廃業

1. JR富山港線のLRT化について

(1) 背景

- ① **運行サービスの低下**…利用者数の減少で（S63の約半分）、日中にディーゼルカー一車両が1時間に1本しか運行されなくなってしまった。
- ② **北陸新幹線整備に伴うJR富山駅付近の連続立体交差事業**…JR北陸本線・高山本線、富山地方鉄道本線を対象とする事業が予定（事業者：富山県）。
- ③ **市街地の低密度化**…富山市は市街地の郊外化により人口密度が低下しており、全国の県庁所在地の中で最も低い水準になっていた。

(2) 経過

- H15.4 JR富山駅付近の連続立体交差事業の調査が採択
- H15.5 富山市長が市議会で、JR富山港線の路面電車化を正式表明
- H15.7 富山港線路面電車化検討委員会が設置され、課題等の検討を開始
- H16.4 第三セクター会社、富山ライトレール(株)が設立
- H16.11 鉄道事業の許可及び軌道事業の特許を取得
- H17.2 鉄道事業及び軌道事業の施行が認可され、工事に着手
- H18.4.29 開業

2. ポータルムの事業スキーム

- (1) **事業スキーム**：「公設民営」←厳しい経営環境の中で、安定的な運営を行うため。
- (2) **運営会社**：富山ライトレール(株) 富山市は施設の整備、維持管理、改良更新等を支援
- (3) **建設費（約58億円）＝国の補助金の活用＋単独補助事業の導入**
◇国の補助金の活用…連続立体交差事業からの負担金／LRTシステム整備費からの補助／路面電車走行空間改築事業／幹線鉄道等活性化事業
- (4) **運営費**＝富山市からの支援＋富山港線路面電車事業助成基金＋運営会社の運賃収入

3. 今後の方向性

北陸新幹線の開業や連続立体交差事業による鉄道の高架化後に、JR富山駅南側の富山地方鉄道が運営する市内電車と接続し、南北路線の一体化を目指す。

4. 状況

- ・ 「ポートラム (PORTRAM)」のネーミングは、「PORT (港)」と「TRAM (トラム)」を組み合わせたもの。
- ・ 車両は全て超低床車両で高齢者や車椅子での乗降も容易。車両の外観は、車両ごとに「パープル」「ブルー」「グリーン」「イエローグリーン」「イエロー」「オレンジ」「レッド」の色が用いられている。
- ・ 単線で、いくつかの電停で上りと下りの車両が交差する。電停は「富山駅北」「インテック本社前」「奥田中学校前」「下奥井」「粟島 (大阪屋ショップ前)」「越中中島」「城川原」「犬島新町」「蓮町」「大広田」「東岩瀬」「競輪場前」「岩瀬浜」の13。「富山駅北」・「岩瀬浜」間は7.6kmで、所要時間は約23分。
- ・ 「インテック本社前」「粟島 (大阪屋ショップ前)」は、1,500万円で電停命名権 (ネーミングライツ) が取得されたもの。インテックは情報サービス業大手、大阪屋は地元資本の食品スーパー
- ・ 運賃は大人 (12才以上) 200円、小児 (6才以上12才未満) 100円、幼児・乳児は無料。ただし19年度末までの間、土曜日・日曜日・祝日の運賃は半額。
- ・ 運賃收受にあたってはICカードシステムも導入している。「passca (パスカ)」と呼ばれるICカードを利用する場合、降車時にタッチパネルにpasscaをタッチして降車する。
- ・ passcaにはプリペイド券と定期券がある。プリペイド券の発売額は2,000円で、うち500円はデポジット (預り金)。また150円のプレミアがつく。残額が残り少なくなったらチャージ (入金) することで引き続き利用できる (画像3)。またpasscaの提示で、宿泊、食事、買物などで割引を受けられることもある。
- ・ 沿線には富山競輪場があり、乗車した日が本場開催日だったことから、一見してそれと分かる競輪ファンも多数乗車していた。また土曜日ということで家族連れで混雑していた (画像4)。※土曜日だったことから運賃は半額。
- ・ 「富山駅北」「インテック本社前」「奥田中学校前」「粟島 (大阪屋ショップ前)」「犬島新町」の5駅は、ポートラム開業に伴って新設された。うち「富山駅北」～「インテック本社前」～「奥田中学校前」については鉄道区間を廃止し、1.8kmの軌道区間を新設した (画像5)。軌道区間については自動車と並走している。
- ・ 一方、「奥田中学校前」・「岩瀬浜」間については、旧JR富山港線の線路敷を活用した鉄道区間である (画像6)。
- ・ 電停「城川原」近くには、富山ライトレール (株) の本社と車両基地がある。
- ・ 運行ダイヤは「富山駅北」5:57~23:15の66本 (平日)、日中は15分ごとに運行している。旧JR富山港線の5:47~21:32の19本と比較して3倍以上多い。
- ・ JR富山港線時代には2,000人/日だった利用者は、5,000人/日にまで増加しており、沿線の観光施設や飲食店もかつての賑わいを取り戻しているとのこと。

(画像1)



電停「富山駅北」に入線するポートラム

(画像2)



「富山駅北」に停車するポートラム

(画像3)



チャージ機 (於 富山ライトレール本社)

(画像4)



車内の様子

(画像5)



軌道区間 (於 電停「奥田中学校前」)

(画像6)



鉄道区間 (於 電停「城川原」)

5. 所感

- ・ 富山市では他の地方都市と同様、中心市街地の空洞化という課題を抱えていることから、全国に先駆けて持続可能な「コンパクトなまちづくり」を推進している。ポートラムはこの施策の一つとして、明確な位置づけを与えられている。
- ・ ポートラムの電停「蓮町」から四方・草島線、電停「岩瀬浜」からは岩瀬・大広田・浜黒崎線というフィーダーバスの路線が開設されており、沿線住民以外にもポートラム利用の便宜を図っている（画像7）。
- ・ 加えて富山市では公共交通活性化による「コンパクトなまちづくり」推進策の第二弾として、J R 高山本線の運行本数を36本から50本/日に増発する社会実験を10月21日から開始した（画像8）。この社会実験にあたっては市内の速星、越中八尾、笹津の三駅でパーク・アンド・ライドの駐車場を整備したほか（画像9）、越中八尾駅では八尾中核工業団地とを結ぶシャトルバスを運行している（画像10）。
- ・ 「コンパクトなまちづくり」は公共交通の活性化だけで取り組まれているわけではない。富山市では市街地再開発や定住人口を増やすための「まちなか居住推進事業」を展開している。またJ R 富山駅前にある「富山ステーションフロントC I C【シック】」には、物販店舗や飲食店のほか市民サービスコーナーの機能を備えた「とやま市民交流館」（画像11）や（財）とやま観光物産センターが運営する「いきいきKAN」が入居しており、中心市街地での行政サービスにも努めている。
- ・ 現在本県においてもL R T導入の是非が盛んに議論されているが、本県での議論は宇都宮市東部の渋滞緩和がきっかけだったこともあり、L R T導入そのものが自己目的化されている面が否めないと感じる。今後ホンダグループによるパーク・アンド・バスライドが成果を上げ、また新鬼怒川渡河道路の整備が見込まれる中、渋滞対策だけでは、L R T導入の理由付けは一層困難になるのではないかと感じる。
- ・ にも関わらず各般の事情のもと、県が引き続きL R T導入を推進するのであれば、例えば中心市街地活性化という目標を大きく掲げ、その中でL R Tを位置づけて“悪目立ち”を避けることで、沿線住民以外の県民の理解を得ていくべきと考える。
- ・ 宇都宮市は旧上野百貨店跡地に建設中の複合ビル内で住民課関係の窓口サービスを行う予定である。また中心市街地に市民を呼び戻すために若年夫婦世帯への家賃補助を開始した。こうした施策の“横並び”のイメージでL R T導入を位置づけてはどうだろうか。合わせてJ R 宇都宮線や東武宇都宮線との連携のほか、農地法、農振法の一層厳格な運用により大型店の郊外展開を抑制するといったこともセットメニューの一つとして検討すべきだろう。
- ・ なおポートラムの建設費58億円に対して、宇都宮市でL R Tを清原工業団地・桜通り交差点間に整備する場合、355億円もの初期投資を要するとされている。その投資額の違いに加えて、ゼロから線路を敷くという本県のハードルは非常に高く、富山市の（現時点での）成功例が「モデルケース」にならないと認識すべきである。

(画像 7)



フィーダーバスの岩瀬駅前停留所

(画像 8)



「もっと高山本線」のステッカーが貼られた
J R 高山本線の車両 (於 J R 富山駅)

(画像 9)



パーク・アンド・ライドの駐車場
(於 J R 越中八尾駅前)

(画像 10)



シャトルバスの停留所
(於 J R 越中八尾駅前)

(画像 11)



J R 富山駅南口にある「とやま市民交流館」

(画像 12)



J R 富山駅南口の市電のりば



－ E N A （フランス国立行政学院） －

知る人ぞ知るフランスの官僚養成機関。「エナルク」と呼ばれる卒業生が、フランスの政財界に大きな影響力を持っていることは「エナルシー」と称される。

シラク現大統領もOBの一人で、日本からも中央省庁の若手職員が留学している。現在売り出し中の片山さつき衆議院議員（静岡7区、自民）も旧大蔵省在籍時に学んでいる。